自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 事業所番号 (0173800525), 法人名 (株式会社 イワクラ), 事業所名 (グループホームゆーあい天馬①), 所在地 (新冠郡新冠町字中央町17-11), 自己評価作成日 (令和3年9月29日), 評価結果市町村受理日 (令和5年12月5日).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0173800525-00&ServiceCd=320).

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 評価機関名 (企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部), 所在地 (札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階), 訪問調査日 (令和5年11月9日).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は当社の敷地を宅地開発し、一面に平屋建て2ユニットのグループホームとして平成15年10月に開設してより20年余りが経ちます。近隣は新興住宅地であり、新築住宅も多くなってきており比較的若い世代も多く子供の遊ぶ姿も見受けられます。当社もこの住宅地の中に3階建ての賃貸マンションを所有しており、当ホームの職員も代用住宅として数名が居住しています。緊急時には大変協力的な戦力として頼りになっています。この地域の中で生活を継続出来るよう近隣の方々には積極的に行事等の参加を呼びかけてきました。近年は近隣の方から楽しみにされている事が伺えますが、現在コロナ禍の影響にて行事の開催は延期にしましたが来年こそは開催できる事を願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、日高管内新冠町の市街地に位置し、閑静な住宅地にある平屋建て2ユニットのグループホームである。旧JR新冠駅から徒歩圏内で、家族や友人・知人も訪問しやすい利便性のいい地区である。法人は、胆振日高管内を基盤として、道内を中心に全国的に展開している建材及び建設関連の大手老舗企業で、地元からの信頼が厚い。2つのユニットは道路を挟んで隣接して建てられており、それぞれ大きな住宅のような感じで、利用者も我が家に住んでいるような状態で、日中は陽射しの良いリビングで寛いで過ごしている。事業所主催の夏祭りなどの行事には、家族や地域の方の多数の参加があり地域の行事にもなっていたが、コロナウイルス感染症対策の為、休止としていたが来年度の再開を予定している。また、避難訓練などの災害対策も地域の方の参加で協力体制が構築されており、更に、町内に社宅があり職員が複数居住しており緊急時対応が可能である。ホーム内には、職員がゆったり寛げる休憩室など配慮された造りで、温もりを感じるホームである。これからも認知症高齢者の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Status (radio buttons), and Achievement Details (numbered list 1-4). Rows 56-62 cover various service outcomes like staff understanding, user participation, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念を掲げており、管理者、職員は朝の申し送り(夜勤者の引継ぎ)後や、月1回のミーティング等で唱和し、理念を共有し実践につなげている。	理念は、事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載して、行事等の際には利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、ミーティングやカンファレンスで唱和して、職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域とつながりは毎年恒例になっていた夏祭り等はコロナ禍の影響で3年あまり開催が出来ず近隣方々とは交流の場も途絶えています、状況が落ち着いた時には再開をする予定をしている。	事業所主催の夏祭りなどに利用者や家族と共に自治会や町職員、地域の方の参加もあり、毎年楽しい催しの交流会となっていたが、コロナウイルス感染症対策の為、自粛していた。来年度からの再開を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	街の医療と福祉の情報誌などを活用して当ホームの職員等の紹介など、内容も含めて掲載しており地域に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍の中で書面にて開催もありましたが、概ね年6回の開催を維持してきました。平成30年より家族の参加が不在でしたが、令和3年より家族の方も参加に同意を経ており、助言を頂いている。	運営推進会議は、自治会役員や民生委員、役場担当者や福祉関係者などが参加、運営状況の報告や意見交換をし、サービス向上に活かしているが、コロナウイルス感染症対策の為、2回書面会議もあつたが、現在は定期的に通常開催で行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎年、町主催の町内福祉関係事業所と町長、副町長また関係部所担当者などと懇談会を開催して各事業所等よりの実情や要望等にて、大きな成果もあつたが、現在はコロナ禍の影響で中断が続いている。再開を望みます。	例年、町主催の福祉関係事業所と町長以下福祉課関係者との懇談会に参加していたが、新型コロナウイルス感染症対策の為、現在は中止となっている。運営推進会議には、役場担当者や福祉関係者などの参加があり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア	虐待、身体拘束委員会にて、話し合い虐待チェックシートの内容を一部見直しをし、活用している。月一回のミーティングで虐待、身体拘束をしない行為の理解に務め身体拘束をしないケアに務めている。	身体拘束をしないケアについては、指針やマニュアルを整備し、身体拘束廃止委員会を設置して、3ヶ月に1回の委員会開催と月一回のミーティングで定期的に検討会を行って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は虐待防止法についてチェックシートを利用し事業所内にて不適切なケアについて自由に記入できる項目ある事や、職員の個人面談等でも聞き入れ、虐待が見逃ごされないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各ユニットごとに日常生活自立支援事業や成年後見制度等の勉強会を行っている。現在、成年後見制度を活用している入居者はいないが、必要が生じた場合に備え活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族の不安や疑問等は十分な説明をし理解を頂き締結している。また入居後も来訪時に理解や納得して頂けるように努めている。契約事項の改訂時は説明し文書にて同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営状況では毎月、ホームの便り、ゆーあい通信を送付して、ご家族等に報告し要望など来訪時には聞き取りをして、ミーティング等で話し合い利用者家族の意見等は運営に反映できるように努めている。	利用者毎の生活状況を記載したホーム便りを毎月発行して、運営状況等を家族に報告している。玄関に意見箱を設置しているが、家族からの意見や要望は、来訪時やケアプラン交付の際に殆ど聞き取り、検討して運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はミーティング等で集約し幹部会議にて話し合い、その意見や提案を反映させ事業所での定期的な研修や個人面談も実施しており、意見等は運営に反映出来るようにしている。	ユニット会議は月1度開催し、リーダー会議はその都度行っている。個人面談は年1回及び必要な都度実施しており、職員からの意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業環境を向上させる為の整備として今回育児、介護休業等に関する規定を一部改訂し現在の環境に添うものとして整備している。資格取得を目指す職員に対して自治体の助成金も活用し、研修費用の負担も支援規定を設けて積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	慢性的介護職員不足は続いている事もあり資格者職員を確保する事は厳しい状況にあり事業所内で勤務評価を把握し各種の研修会等への参加を促しその費用を投資して人材を育てる機会を確保して行く取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業各社との交流では地域の社会福祉法人理事長や近隣の同業経営者とも親交もあり、不定期ではあるが、各問題が招じた場合には情報交換をして今後の活動やサービス向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の面談調査でご本人の嗜好や現在生活の中で困っている事、表情等で読み取れるような会話をしよう心がけ、ご本人が安心できるよう関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や心配事を解決できるように具体的な例をあげ、分かりやすく伝えている。利用前、初期の利用後もホームで出来る事、出来ない事を伝え家族の理解にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族からの聞き取りからサービス内容を検討している。対応出来ない場合は他の機関等に相談するなどの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の残存能力に応じ、ホーム内の家事、食事前の個々の手の消毒、テーブルを拭く、食器を拭く、洗濯物たたみ等、軽作業を依頼し職員と一緒に季節の飾りつけを行うなどし関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ関係で面会は緩和され、現在制限はあるも本人との面会出来ている。受診、生活面は来訪時や電話連絡にて行っている。月に一回のホームのお便りにも個々の写真を添付し生活状況を伝える等家族、本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ関係で制限はあるが、町内の病院で町内在住だった利用者の方の知り合いに逢う事があり挨拶や、多少の会話が出来たりしている。年一回の町内の温泉で食事をしたり、春には花見のドライブに出かけている。時々、ホームの近所を散歩したりしている。	新型コロナウイルス感染症対策の為、面会や外出は控えているが、感染症対策をして、地域の温泉レストランの大広間を貸し切りして食事をしたり、季節ごとの少人数での花見ドライブ、2ヶ月に1度買い物に行くなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カンファレンス、ミーティングなどで情報収集、課題分析をし、個々の他者との関わり等を掌握し変化があれば、その都度、配席を変える、様子を伺うなどし利用者同士が関わりを持ってお互いに支えるよう事が出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終わっても、家族や本人から相談があれば対応できるように努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面談時にも聞き取りはしているが、入居してから個々と関わりながら会話の中にも注目し希望や意向の把握に努めている。カンファレンス、個人記録などで表情や動作等を話し合い本人の希望に添うよう努めている。	利用者の誕生日などで、食べたいものの意向を聞いたり、日々の生活の中での支援でも、思いや意向を把握するよう努めている。	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から生活歴、馴染みの暮らし方を聞き取りを行い、入居前に関わったサービス事業所からも当時の生活の様子を聞き取るなど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の状況、個々に出来ること、有する力等個人記録に記録し職員で共有しながら現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回のカンファレンスやモニタリングで意見を出し合い、4か月に一回、介護計画の見直しを行い場合により、入院や介護度の変更時はその都度見直しを行っている。本人、家族に説明しながら、要望意見等も聞き入れ出来るだけ、現状に即した介護計画作成に務めている。	利用者一人毎に全職員と家族がモニタリング評価を実施している。家族の意見や要望も収集し、計画作成担当者が計画作成して、再度全職員とカンファレンスにて検討。家族にも確認してもらい、現状に即した介護計画を作成している。見直しは4ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスで日常の中での言動、行動、表情など気づきや工夫の情報の共有をしながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ関係があるが、本人、家族との外出の希望は出来るだけ聞き入れている。コロナ感染予防委員会で決めた事項を説明し出来るだけ柔軟に対応している。入院、退院等も家族と話し合い難しいときはホームで対応する事がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春に桜の花見のドライブ、敬老会を兼ねての町内の温泉施設の大広間を貸し切り、レストランのメニューを個々に選び食事をしたり、ゲームを楽しまれたりしていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診1か月から2か月に一回程度行かれ家族にその旨を連絡報告している。また、かかりつけの医療機関と連絡相談をその都度行い、関係を築き、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関に1～2ヶ月に1回定期受診し、家族に報告している。また、協力医療機関の看護師に24時間体制で相談でき、適切な医療を受けられるように支援している。今後に向け、地域の協力医療機関に往診についても打診中である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中、夜間と個々の身体状態などの発熱、異変があればかかりつけの医療機関の看護師に連絡、相談し利用者が適切な受診が受けられるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、フェイスシート、アセスメント等、個々の生活状況、既往歴、家族構成などの情報を速やかに伝え、又は書類を渡すなどし病院関係者との情報交換、相談に努めている。早期退院に向けて相談行い、関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	見取りケアは医療機関と話し合いを進めている段階で調整を行っている。現在は重度化、終末期において医療機関、家族と話し合いを行いホームで出来ることを説明し対応している。	重度化した場合や終末期の対応については、看取りはしないことの説明と同意を得ているが、協力医療機関との連携など、家族と医療ニーズなどについても都度打ち合わせして可能な限り対応に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルに沿って対応し、日常において職員間で情報交換を速やかに急変や事故発生に備えている。コロナが5類に移行し今年、9月に消防署にて介護職員を対象に普通救命講習を実施した。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を実施している。今年は消防署の方の立ち合いの下、専用の機材を使用し消火訓練を実施している。毎年、年一回の町主催の防災避難訓練は参加している。	火災の避難訓練は、消防署立会いの下、年2回地域の方の参加協力で定期的実施している。町主催の地震と津波の防災訓練にも参加しており、停電の際は、消防署より発電機の貸出の取決めがあるなど備品や備蓄も整備して、緊急時も含め地域との協力体制を築いている。	R6年4月までに、自然災害対策BCPの作成とそれに基じた避難訓練などシミュレーション、見直しを行い完成版とすることを期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に接遇などのアンケートを利用し職員の意識づけの定着に努め個々の人格を尊重しプライバシーに配慮している。ケアプランにも取り入れ日常的に適切な対応が出来るように取組みを行っている。	人格の尊重とプライバシーについては、年1回接遇研修を行っており、ユニット会議やカンファレンスの際にも都度確認を行っている。記録簿も利用者名が分からないよう配慮し、アンケート調査を行うなどプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話や希望等がないか、個々が話しやすい雰囲気づくりに努め自己決定ができるように努めている。ケアプランの更新事に本人、家族と話し希望、意見などを聞き取りも行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日々の個々の心身、身体状況などの把握に努め本人のペースに合わせた過ごし方や個々の希望に添うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に個々と向き合いその人らしさ、身だしなみ服装の好み等の把握に務め入浴後、起床後に着用する衣類などを用意している。また理髪店に出張に来て頂き、個々の要望を聞きながらカットしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前調査で個々の好み、苦手なものなどの聞き取りをし、苦手なもの、食べづらいもの(義歯装着がない)も工夫し提供している。また、後片付けも、個々にテーブルを拭く、食器を拭くなど日課として行って頂いている。	食事はユニット毎に調理担当があり、利用者の希望に対応している。利用者は、テーブル拭きや下ごしらえ、盛り付け、後片付けなど手伝っている。行事食は、感染症対策をして温泉のレストラン貸し切りでの外食や駐車場での焼き肉・生寿司など、楽しみとなるように支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、食事の量、水分摂取量も個々に把握しており食事、水分量が適切かカンファレンス等で話し合い、個々の状態や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、残歯がある方は、磨き残し無いよう確認し場合により職員が一部介助し対応している。一人ひとりの口腔の状態、自立されている方に声掛けをし対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄関連は職員で記録を元にカンファレンスで排泄のパターン、習慣を話し合い自立に向けた支援に努めている。個々に使用している衛生用品は適切かなども話し合いを行っている。	排泄記録簿から基本的な個々の状況を職員間で共有して、利用者毎に時間や仕草などを見ながら声掛け誘導を行い、トイレでの自立した排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の排泄を個々に記録にて把握し、職員間で共有している。午前のラジオ体操や午後から椅子体操をするなど適度な運動、食べ物も工夫し個々に応じた予防に努めている。主治医にも相談し下剤の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴は一人ひとりの希望に合わせて早めに入りたい、ゆっくりお湯に浸かりたいなどの個々の好みやタイミングに合わせて対応している。本人から入浴の申し出があればいつでも対応出来るようにしている。	浴室はユニット型で、入浴は週2~3回、午後からの実施を基本に、希望があれば何時でも入浴できるよう個々に沿った対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣は勤務交代に申し送り、カンファレンスなどで情報を共有し、夜間眠れない等の方は居室で寄り添うように話を傾聴するなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の内容をカンファレンスで職員間の共有があり用法、容量を理解し、個々に合わせ適切に行われるよう努め、症状の変化がないかなどの確認にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課として毎日、食後の食器拭き、洗濯物たたみなど個々の役割りとして自ら行って頂いている。好きなテレビ番組、ゲーム、近隣の散歩として気分転換などの支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩や買い物などの支援に努めている。今後、ホームに来ていただき販売車を利用し個々に買い物をして頂けるような支援も検討している。家族から外出の希望があればコロナウイルス感染対策の説明をして対応している。	日常的に感染症対策をしての外気浴や近隣の散歩をしている。外出行事は、静内のお花見ドライブや白鳥見学、温泉外食などコロナウイルス感染症対策をしながら少しずつ支援している。また週1回、移動販売車が来る事となり、利用者は自身で好きな物を選んで購入できる事を楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に、お小遣いとして預かり、本人からの申し出や、日常必要な物品や衛生用品等に使用している。金銭出納帳に記入し毎月一回、明細、残高の写しを送り確認して頂いている。買い物支援(移動販売車)も安全、安心して楽しんで頂ければと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話等も個々にやり取りが出来るように支援している。手紙、はがきなど手渡しする時に読むなどの対応をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁など季節に沿った飾りつけをトイレのドアの前にカーテンをつけてプライバシーの配慮をしている。配席にも個々の性格などを考慮し居心地よく過ごせる工夫に努めている。各個室に湿度、温度計を設置し季節にあった温度調節に配慮している。	共用空間は、ユニットにより少し異なるが、玄関から入るとゆったりしたダイニングとリビングがあり、天窗やウッドデッキもある。採光や風通しもよく、整理整頓され、清潔感があり、利用者は寛いで過ごしている。壁には行事の写真や季節の飾り物などが飾られている。また、各ユニットには非常口があり、緊急時には有効である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのベランダから外がいつでも眺められるよう椅子など配置している。配席なども気の合った方同士が会話などし、ゆったり過ごせる様に配慮している。(リビングに大型のテレビを2台設置している。)		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に馴染みの物を本人、家族に相談し持参して頂き出来るだけ安心、居心地よく過ごしていただけるように工夫している。現在、外泊は控えて頂いているが、家族の面会時などは個々の居室でゆっくり過ごして頂くなどの対応をしている。	居室には、収納クローゼットやベット、洗面台が設置されている。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、居室の洗面台は車いすのままでも使いやすいタイプのものに順次改修している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新規の入居者の方用にトイレの案内板をつけたり、自室に写真や場合により名前をつけるなどし不安等を軽減し、自立した生活が送れるように支援している。個々に寄り添った声掛けをし場所の案内などの対応もしている。		